

新型コロナ 今後の方針は3通り 選ぶカギは「死生観」

2022.10.10 谷口恭・太融寺町谷口医院院長毎日新聞



運用が始まった兵庫県の陽性者登録支援センター＝神戸市で2022年9月26日午前11時26分、井上元宏撮影

2022年9月18日放送の米テレビ局「CBS」の番組「60Minutes」(60分)で、バイデン米大統領が「(新型コロナウイルスの)世界的大流行は終わった(the pandemic is over)」と発言したことが報道されました。この発言に対し、米国の医療者やコロナ後遺症で苦しむ人たちは反対の声明を出し、一部の人たちはホワイトハウスに集合し、大統領の発言に対する抗議を行いました。すると大統領は批判に対し「基本的に過去とは違う(It basically is not where it was)」と苦し紛れの言い訳のような言葉を放ちました。

現在世界中で「新型コロナは終わったのか否か」についての議論が盛んです。「終わった」とみるかどうかで生活スタイルが大きく変わりますから、だれもが気になる話題です。今回は「終わった」かどうかはだれがどのような基準で決めるべきなのか、について私見を述べたいと思います。

「コロナ前」にほぼ戻ったタイ

バイデン大統領の発言が報道された後すぐに反対意見が相次いだとはいえ、米国民の多くは外出時にマスクを外し、新型コロナ前と同じような生活をしています。欧州でも一部には慎重派の意見も根強いものの、外出時にマスクを着用しない人の方が圧倒的に多いと聞きます。

タイは、9月30日に「非常事態宣言」を解除しました。入国時の「ワクチン接種証明書」や「陰性証明書」の提示を不要にし、また、感染しても軽症であれば自己隔離の義務をなくして外出可能にしました。つまり、ほぼ新型コロナ前の世界に戻ったのです。

一方、日本では、10月11日から入国時のPCR検査はほぼなくなる予定ですが、高齢者や重症化リスクのある人のみならず、軽症者や無症状者の場合も、診断がつけば療養義務が生じる規則は継続されます（完全な「義務」ではありませんが事実上の義務に近いと言えます）。街を歩けばマスクをしている人の方が多く、飲食店では（効果があるかどうかは疑問ですが）今も席と席の間に衝立（ついたて）が置かれています。一部の自治体の実施している宿泊キャンペーンではワクチン接種証明書を提示しなければ割引が受けられません。このような状態では決して「コロナは終わった」とは言えません。

では、今後我々が選択すべきはどのようなライフスタイルなのでしょうか。それには三つのプランがあります。順にみていきましょう。

【プランA】 新型コロナの重症化率や死亡率が、インフルエンザと同じ程度になるまで「コロナは終わっていない」と考えて、それなりの対策をとり、規制をする



新型コロナウイルスの水際対策が緩和され、海外から観光客らが続々と到着した関西国際空港 = 関西国際空港で2022年9月7日午前11時33分、高良駿輔撮影

米国では医療者がバイデン大統領の発言に反対の声を上げ、一部の医師はツイッターに「#COVIDIsNotOver」（新型コロナは終わっていない）というハッシュタグを立ち上げました。10月になっても米国全体で毎日400人以上がコロナで死亡しており、『「コロナは終わった』などと言えるわけがない』と考える人は少なくありません。大統領発言に反対する人たちは屋内でのマスク着用義務も訴えます。しかし、こういった人たちもほとんどは「新型コロナ前の世界よりも厳しい行動制限」を求めているわけではありません。おそらく、死亡者が減少し、高齢者や免疫能が低下した人たちの新型コロナ重症化リスクがインフルエンザと同じ程度になり、さらに後遺症を訴える人数がインフルエンザと同程度になれば、その時点で「新型コロナは終わった」とみなすでしょう。

コロナとインフルエンザ 重症化率や死亡率の差

では、新型コロナとインフルエンザはどの程度重症化リスクが異なるのでしょうか。オミクロン株流行以降はかなり軽症化したのは事実ですが、その差はどの程度なのでしょうか。これに関し、日本人を対象とした興味深い研究を、奈良医大などの研究者たちが発表しています。論文は医学誌「Annals of Clinical Epidemiology」に掲載され、8月3日にウェブ上で早期公開されました。すでに早期公開版を改訂した最終版もでており、タイトルは「日本における、新型コロナウイルスと季節性インフルエンザに関連する年齢別死亡率：複数の人口ベースのデータベースを使用 (Age-specific mortality associated with COVID-19 and seasonal influenza in Japan: using multiple population-based databases)」です。この研究は、新型コロナ（今年前半、つまりオミクロン株がはやっている時点）とインフルエンザについて、年齢別にみた死亡率を試算し、結果を比較しています。なお、ここでいう「死亡率」は「人口あたりでみて、年間何人が亡くなるか」を意味します。

興味深いことに、0～9歳では、インフルエンザによる死亡率の方が、新型コロナによる死亡率より高くなっています。人口1000万人あたり、インフルエンザでは年間47人、新型コロナでは年間19人が亡くなるとの試算結果です。

次に、10歳から39歳まではほとんど差がありません（いずれの年代も人口1000万人あたり多くても50人程度です）。

この傾向は40代から変わり、新型コロナによる死亡率の方が高くなります。死亡率の差は高齢になるほど目立ち、70代だと、インフルエンザによる死亡が人口1000万人あたり年間1291人なのに対し、新型コロナでは同3242人。80歳以上だと、インフルエンザによる死亡は同7531人で、新型コロナは1万7192人、という試算結果になっています。軽症化してきているとはいえ、高齢者（及び免疫能低下者）にとっては、やはり新型コロナはインフルエンザと同等の感染症ではないのです。

ということは、プランAを選択するのであれば「コロナはまだ終わっていない」と考え、人口あたりの死亡者数がインフルエンザと同等に低下するまでは、重症化リスクを有する人を保護するような規則及び生活様式を取り入れなければなりません。

【プランB】 インフルエンザと同じにする必要はないと考えて「自然な状況」を受け入れ、新型コロナ流行前のように過ごす

プランAではインフルエンザを基準に考えました。しかし、なぜインフルエンザを基準にすべきかについて絶対的な答えはありません。例えば、誤えん性肺炎で死亡する日本人は年間5万人ほどいます。ならば「新型コロナによる死亡者がこれを下回るのであれば受け入れてもいいのではないか」という意見が出てきてもおかしくありません。ワクチン接種は推奨するのではなく、「受けたい人だけが受ける」という方針をとり、マスク着用を完全に自由とし、新型コロナの検査も治療も無料ではなく通常の保険診療とするのです。

このプランを選択すれば、高齢者（や免疫能低下者）の死亡者数は増加するでしょう。それでも、社会全体で「コロナによる死亡はその人の運命だった」と納得するのです。

【プランC】 インフルエンザによる死亡者を減らすような生活様式をとる

「(今まで黙っていたけれど) 年間1万人もの日本人が死亡しているインフルエンザ対策は不十分だった」と考えて、インフルエンザを可能な限り予防する生活様式を取る考えです。新型コロナのみならずインフルエンザについても、ワクチン接種を徹底し「発熱外

来」はインフルエンザも対象とします。インフルエンザの検査で陽性となれば現在の新型コロナのように、数日間の自宅療養が義務付けられ、家族がいる場合は療養型施設に隔離されます。企業や学校はインフルエンザのクラスター（感染者集団）が発生しないように、日々の対策を強いられます。

インフルエンザはマスクでは防ぎにくい

このプランで問題なのはマスクの効果が期待できないことです。本連載で繰り返し述べているように、**新型コロナの場合は、ウイルスの粒子が大きいために、マスクをしていればウイルスが外に漏れず、他人への感染を防ぐことができます。しかしインフルエンザの場合はマスクを着用していても（しないよりはましですが）ウイルスが呼気と共に外部に漏れます。ということは、コロナと同等の対策では流行を抑えるのには不十分となります。**

さて、日本のこれからの新型コロナ対策はプランA、B、Cのどれにすべきでしょうか。1日400人以上の国民が死亡していても「大流行は終わった」と発言する米国大統領はプランBを想定しており、それに反対する米国の医療者たちは少なくともプランBには反対し、おそらくプランAを考えているはずで



タイの国民食「カオマンガイ」の店でゆでた鶏肉を切る従業員たち＝バンコクで
2022年6月17日午後5時46分、高木香奈撮影

上述したようにタイでは事実上、プランBが選択され、すでに新型コロナ前の世界にほぼ戻っています。

そこで私は、知人のタイ人数人に、本当に国民がそれを受け入れているのかどうかを尋ねてみました。その結果、「外出時にはまだマスクをしている」という人が多いものの、医療者も含めて全員が「元の世界に戻ってよかった。自分の周囲には（医療者も含めて）

この方針に反対している者はいない」と答えました。では、タイでは高齢者に対してはどのように考えられているのでしょうか。私がタイ人と話していて感じるのは「これがタイ人の死生観だ」というものです。これは私とつきあいのあるタイ人の話であって全体で調査をすれば変わるかもしれませんが、コロナ流行前から私が個人的に感じていたタイ人の死生観と、今回の「コロナは終わった」と考え「コロナで死ぬのは仕方がない」とみなす死生観とは矛盾しません。

ただし、私は「日本人はタイ人を見習うべきだ」と言っているわけではありません。そうではなく、今後の新型コロナ対策は、ウイルスの特性や治療薬、罹患（りかん）率や死亡者数の疫学調査結果、といった科学的なデータのみならず、「国民の死生観が反映されなければならない」、と言いたいのです。